

ときざね しん こ
時実 新子

昭和4年(1929)～平成19年(2007) / 川柳作家・エッセイスト

本名: 大野恵美子(旧姓 森)、上道郡九幡村(現・岡山市東区九幡)生れ。

～吉井川は感情の激しい川である。それも、河口なら尚更に激しかった。

岡山県を南北に貫く一級河川。それが児島湾に注ぐ辺りは向う岸も霞む広さで、海と呼ぶほうがふさわしかった。……中略……

この吉井川に小雪が舞う日、小児井さんという肥った産婆が額に汗を浮かべながら川土手を自転車で走っていた。

昭和四年一月二十三日のことである。～(「花の結び目」より)



「馬」12号、15号



「新子百句」

新子

句集『新子』初版本
(川柳ふあうすとひめじの会/昭和38年)

《略歴》

- 昭和21年(1946) 岡山県立西大寺高等女学校卒業後、17歳の時に姫路市の文房具店「まるとや」に嫁ぐ。
- 昭和29年(1954) 25歳の時、神戸新聞に投句をはじめ、翌年には「川柳ふあうすとひめじの会」に参加、雅号を「新子」とする。
- 昭和38年(1963) 自費出版した句集「新子」は刊行から2か月で売り切れとなり注目を集める。
- 昭和56年(1981) 私史「花の結び目」をマスコミが紹介したことがきっかけとなり、読者が全国へ広がる。
- 昭和62年(1987) 12月15日に刊行した「有夫恋」は、年内に3刷。
- 平成8年(1996) 阪神淡路大震災を機に主宰誌「川柳大学」創刊。



『花の結び目』
(たいまつ社/昭和56年)

「紙張りのピースの色、煙草のピースにして、…」
『新子』は本ではなくて私が生んだ人間なのだから、病める人、悩みをもつ人、さびしい人、そういう「ものあわれのわかる人」たちに求められたのであろう。

特別展
生誕90年

時実新子展

ことばの力

映画「ずぶぬれて犬ころ」(住宅顕信)
上映記念企画展

～夭折の俳人～

すみたく けんしん
住宅 顕信

昭和36年(1961)～昭和62年(1987) / 俳人

本名: 住宅春美、岡山市北区谷万成生れ。

“気の抜けたサイダーが僕の人生”

《略歴》

岡山市立石井中学校を卒業後、調理師学校に進む。昭和54年(1979)19歳で岡山市役所に勤務。そのころから顕信は仏教関係の本を読むことが多くなり、22歳の時、京都西本願寺で得度し浄土真宗の僧侶となる。その時に授けられた法名「顕信」を俳号とする。

得度した年に結婚するも、その年の暮れに体調不良を訴え、内科を受診。診断は“急性骨髄性白血病”即刻入院となる。

新妻は妊娠していたが離婚。誕生した春樹を引き取り病室での育児が始まる。そんな生活の中で句作を始め、

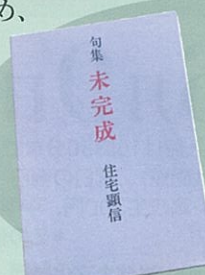
昭和59年「層雲」に入門。昭和60年12月、句集「試作帳」を出版。死を目前にして作られた句集「未完成」は、亡くなった翌年昭和63年2月に出版された。



愛用の万年筆



住宅顕信



句集『未完成』
(彌生書房/昭和63年)



『試作帳』
(出版サービスセンター/昭和60年)